

大門遺跡

袋井駅南土地区画整理事業に伴う
第15～29次発掘調査報告書



2024

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は、静岡県袋井市高尾に所在する大門遺跡の令和元（平成31年度）・2年度発掘調査報告書である。
2. 調査は、袋井駅南都市拠点土地地区画整理事業に伴って袋井市袋井駅南都市拠点土地地区画整理組合（理事長 門名正樹）から依頼を受け、袋井市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は袋井市高尾 1100番ほかを対象として実施し、その合計調査面積は 9,536㎡である。
4. 発掘調査は袋井市教育委員会生涯学習課の原未貴を調査担当者とし、静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課の指導を得て実施した。
5. 発掘調査期間及び資料整理期間は下記のとおりである。

発掘調査（第15次現地調査）	平成31年3月5日	～	平成31年4月21日
（第16次現地調査）	令和元年5月7日	～	令和元年5月31日
（第17次現地調査）	令和元年6月3日	～	令和元年8月22日
（第18次現地調査）	令和元年8月21日	～	令和元年10月18日
（第19次現地調査）	令和元年10月15日	～	令和元年12月6日
（第20次現地調査）	令和元年12月9日	～	令和2年2月7日
（第21次現地調査）	令和2年2月12日	～	令和2年3月17日
（第22次現地調査）	令和2年4月16日	～	令和2年5月22日
（第23次現地調査）	令和2年5月21日	～	令和2年8月19日
（第24次現地調査）	令和2年6月24日	～	令和2年10月21日
（第25次現地調査）	令和2年8月18日	～	令和2年11月25日
（第26次現地調査）	令和2年10月5日	～	令和2年11月10日
（第27次現地調査）	令和2年11月9日	～	令和2年12月21日
（第28次現地調査）	令和3年1月8日	～	令和3年2月25日
（第29次現地調査）	令和3年1月29日	～	令和3年3月10日
整理作業	平成31年4月15日	～	令和3年2月28日

6. 発掘調査および本書の発刊に係わる事務は袋井市教育委員会生涯学習課文化財係が担当した。
7. 調査体制

発掘調査実施機関 袋井市教育委員会

令和元年度（平成31年度）

教 育 長	鈴 木 典 夫
教 育 部 長	伊 藤 秀 志
生涯学習課長	杉 山 明 子
生涯学習課主幹	村 田 昭 弘
生涯学習課主幹	
兼文化振興係長	白 澤 崇
主 任 主 査	水 野 雅 彦
学 芸 員	北 嶋 未 貴（調査担当）
臨 時 職 員	鈴 木 寿 美 子

令和2年度

教 育 長	鈴 木 一 吉
教 育 部 長	伊 藤 秀 志

生涯学習課長	村田秀明
生涯学習課主幹	豊田ますえ
生涯学習課主幹	
兼文化振興係長	白水澤崇彦
主任主査	水野雅彦
学芸員	北嶋未貴
臨時職員	鈴木美子
臨時職員	永井義博
令和5年度整理報告	
教育部長	鈴木吉明
教育部長	石黒一
生涯学習課長	大庭尚文
生涯学習課補佐	岡本美奈子
生涯学習課参事	
兼文化財係長	白水澤崇彦
主任主査	水野雅彦
主任学芸員	原侑輝
主任学芸員	杉山麻衣
主任学芸員	深澤麻衣
臨時職員	鈴木美子
臨時職員	永井義博

8. 本書の執筆及び編集は袋井市教育委員会生涯学習課文化財係の原未貴、深澤麻衣、水野雅彦が行った。なお、遺構の説明については、調査番号順ではなく、調査区が隣り合い、近接する調査区にまたがる遺構はまとめて報告する。
9. 本書で用いた調査区全景写真は株式会社フジヤマにより撮影されたもので、遺構は原が撮影し、遺物については、水野及び井澤皇暉が撮影したものである。
10. 本書に使用した遺構の実測図は、株式会社フジヤマが行った写測図を使用したものである。また、出土土器実測図についても株式会社フジヤマに委託し作成した。
11. 発掘調査によって出土した遺物や関係資料・記録はすべて袋井市教育委員会が保管している。
12. 発掘調査・遺物整理従事者（順不同・敬称略）
 岩本愛子、岡山茂樹、加藤和秋、金原正治、金原知一、永井攻、松本宣義、雪島和夫、横田務、金原和夫、植田嘉明、田代佳延、鈴木智、竹内偉夫、松下博、石川裕文、塚本遼太郎、小島仁、鈴木由美子、川島誠、藤田信夫、藤田敏子、阿部菊朗、鈴木康夫、後藤保夫、名倉史郎、芝田眞秀、山本信司、山本留美子、牧野由真子、長井由美子、大原ほなみ、河原崎洗希、立木菖、外山真子、井澤皇暉、永井義博
13. 発掘調査にあたっては下記の方々にご教示、ご協力を賜った。（敬称略）
 篠原和大、鈴木敏則、平野吾郎、松井一明、河合修、五島康司、田村隆太郎、溝口彰啓、渡井英誉

凡 例

1. 挿図中のレベルは海拔、方位・測量図については国土座標真北（世界測地系）を使用している。
2. 本書で用いた色彩に関する用語、記号は新版『標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1993）をもとに標記した。
3. 遺構平面図・断面図の縮尺は、図中にスケール等で示した。
4. 検出した遺構の下記の記号で表す。
 SA＝柵跡、SB＝竪穴住居跡、SD＝溝、SE＝井戸跡、SF＝道路跡、SK＝土坑、
 SH＝堀立柱建物跡、SP＝ピット、SX＝その他の遺構、SZ＝方形周溝墓・墳墓
5. 挿図中で「S」は礫、「P」は土器、「C」は炭化物を示す。
6. 実測図を掲載した弥生土器・土師器・須恵器等の土器及び土製品・金属製品・石器には、それぞれ通し番号を付し、文中・遺構図版で共通して用いている。
7. 本書では、掲載遺物実測図中に以下のような網掛けを用いた。

〔遺物断面〕

	弥生土器・古式土師器・土師器・土師質土器
	須恵器
	灰釉陶器・中世陶器
	土製品・石製品・木製品

〔遺物表面〕

	灰釉
	赤彩

目 次

例言

凡例

目次

第1章 遺跡の位置と環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
3. 大門遺跡の調査履歴	3
第2章 事業にいたる経緯	4
第3章 調査の方法と経過	6
1. 調査の方法	6
2. 調査日誌抄	7
第4章 発掘調査の成果	8
1. 調査範囲について	8
2. 第15次調査	9
2-1. 弥生時代の遺構・遺物	
2-2. 古墳時代の遺構・遺物	
2-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
3. 第16次調査	12
3-1. 弥生時代の遺構・遺物	
3-2. 古墳時代の遺構・遺物	
3-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
4. 第17次調査	16
4-1. 弥生時代の遺構・遺物	
4-2. 古墳時代の遺構・遺物	
5. 第18次調査	34
5-1. 弥生時代の遺構・遺物	
5-2. 古墳時代の遺構・遺物	
5-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
6. 第19次調査	43
6-1. 弥生時代の遺構・遺物	
6-2. 古墳時代の遺構・遺物	
6-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
7. 第20次調査	53
7-1. 弥生時代の遺構・遺物	

7-2. 古墳時代の遺構・遺物	
8. 第21次調査	65
8-1. 古墳時代の遺構・遺物	
8-2. 奈良時代以降の遺構・遺物	
9. 第22次調査	69
9-1. 弥生時代の遺構・遺物	
9-2. 古墳時代の遺構・遺物	
9-3. 奈良時代以降の遺構・遺物	
10. 第23次調査	77
10-1. 弥生時代の遺構・遺物	
10-2. 古墳時代の遺構・遺物	
11. 第24次調査	87
11-1. 弥生時代の遺構・遺物	
12. 第25次調査	97
12-1. 弥生時代の遺構・遺物	
12-2. 古墳時代の遺構・遺物	
13. 第26次調査	103
13-1. 弥生時代の遺構・遺物	
13-2. 奈良時代以降の遺構・遺物	
14. 第27次調査	108
14-1. 弥生時代の遺構・遺物	
15. 第28次調査	116
15-1. 弥生時代の遺構・遺物	
15-2. 古墳時代の遺構・遺物	
16. 第29次調査	125
16-1. 弥生時代の遺構・遺物	
16-2. 古墳時代の遺構・遺物	
第5章 まとめにかえて	132
引用参考文献一覧	
写真図版	
抄録	

挿図目次

図1 周辺遺跡分布図	2	図54 第20次調査区SD27・28	60
図2 貸井駅南土地画整理事業の範囲と大門遺跡	5	図55 第20次調査区遺物実測図1	61
図3 令和元年度～2年度調査区位置図	5	図56 第20次調査区遺物実測図2	62
図4 第15～29次調査区全体図	8	図57 第20次調査区SH51 SK27 SP20-253	63
図5 第15次調査区全体図	9	図58 第20次調査区遺物実測図3	64
図6 第15次調査区SB16・17	10	図59 第21次調査区全体図	65
図7 第15次調査区SH30・31 遺物実測図	11	図60 第21次調査区SH52	66
図8 第16次調査区全体図	12	図61 第21次調査区SH53 SA10～12	67
図9 第16次調査区SB18	13	図62 第21次調査区SK28 SP21-210 遺物実測図	68
図10 第16次調査区SK9・10 SH32	14	図63 第22次調査区全体図	69
図11 第16次調査区SH33	15	図64 第22次調査区SB24	70
図12 第17次調査区全体図	17	図65 第22次調査区SB22・23	71
図13 第17次調査区SZ1	18	図66 第22次調査区SH54	72
図14 第17次調査区SZ2	19	図67 第22次調査区SH55 SD29	73
図15 第17次調査区SZ3	20	図68 第22次調査区SK29 SP22-245 SB25	74
図16 第17次調査区SK11～1	21	図69 第22次調査区SB26 SD30	75
図17 第17次調査区SH34	22	図70 第22次調査区遺物実測図	76
図18 第17次調査区SH35・36 SK14	23	図71 第23次調査区全体図	77
図19 第17次調査区SB37 SK13 SP17-001	24	図72 第23次調査区SH56・57	79
図20 第17次調査区遺物実測図1	25	図73 第23次調査区SH58 SK30・31	80
図21 第17次調査区遺物実測図2	26	図74 第23次調査区SK32～35	81
図22 第17次調査区遺物実測図3 SK11出土写真	27	図75 第23次調査区遺物実測図1	82
図23 第17次調査区遺物実測図4	28	図76 第23次調査区遺物実測図2	83
図24 第17次調査区遺物実測図5	29	図77 第23次調査区遺物実測図3	84
図25 第17次調査区遺物実測図6	30	図78 第23次調査区SB27	85
図26 第17次調査区遺物実測図7	31	図79 第23次調査区SB28 SD31 遺物実測図4	86
図27 第17次調査区遺物実測図8	32	図80 第24次調査区全体図	87
図28 第17次調査区遺物実測図9	33	図81 第24次調査区SB29・30	89
図29 第18次調査区全体図	34	図82 第24次調査区SB31・32	90
図30 第18次調査区SB19	35	図83 第24次調査区SB59・60	91
図31 第18次調査区SH38 SK15	36	図84 第24次調査区SH60 SK36～38 SP24-001・24-330	92
図32 第18次調査区遺物実測図1	37	図85 第24次調査区遺物実測図1	93
図33 第18次調査区SH39 遺物実測図2	38	図86 第24次調査区遺物実測図2	94
図34 第18次調査区SH40・41	39	図87 第24次調査区遺物実測図3	95
図35 第18次調査区SH42・SK16	40	図88 第24次調査区遺物実測図4	96
図36 第18次調査区SA5～8	41	図89 第24次調査区全体図	98
図37 第18次調査区遺物実測図3	42	図90 第25次調査区SB33 SH61	99
図38 第19次調査区全体図	43	図91 第25次調査区SH62 SX15 SK39	100
図39 第19次調査区SH34・44	45	図92 第25次調査区SH63 SP25-090	101
図40 第19次調査区SH45・46	46	図93 第25次調査区遺物実測図	102
図41 第19次調査区SK17～19	47	図94 第25次調査区全体図	103
図42 第19次調査区SP29-200 SD24	48	図95 第26次調査区SH64	104
図43 第19次調査区遺物実測図1	49	図96 第26次調査区SH65・66	105
図44 第19次調査区遺物実測図2	50	図97 第26次調査区SH67 SP26-210・26-290	106
図45 第19次調査区遺物実測図3	51	図98 第26次調査区遺物実測図	107
図46 第19次調査区SD25・26 SK20 遺物実測図4	52	図99 第26次調査区全体図	108
図47 第19次調査区全体図	53	図100 第27次調査区SB34	109
図48 第20次調査区SB20	54	図101 第27次調査区SH68・69	110
図49 第20次調査区SB21 SH48	55	図102 第27次調査区SH70 SK40・41	112
図50 第20次調査区SH49・50	56	図103 第27次調査区SK42・43 SP27-001・27-002	113
図51 第20次調査区SK21・22	57	図104 第27次調査区SZ4	114
図52 第20次調査区SK23・24	58	図105 第27次調査区遺物実測図	115
図53 第20次調査区SK25・26	59	図106 第27次調査区全体図	116

図 107 第 28 次調査区 SH71	1 1 7	図 113 第 28 次調査区遺物 SH74	1 2 3
図 108 第 28 次調査区 SH72・73	1 1 8	図 114 第 28 次調査区 SH75 SK16	1 2 4
図 109 第 28 次調査区 SZ5	1 1 9	図 115 第 28 次調査区全体図	1 2 5
図 110 第 28 次調査区 SK44 ~ 47	1 2 0	図 116 第 29 次調査区 SH76	1 2 6
図 111 第 28 次調査区 SD321	1 2 1	図 117 第 29 次調査区 SH77 SK48	1 2 7
図 112 第 28 次調査区遺物実測図	1 2 2	図 118 第 29 次調査区遺物実測図	1 2 8

挿表目次

表 1 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧	3	表 4 遺物対比表 2	1 2 9
表 2 平成 30 年度発掘調査区一覧	4	表 5 遺物対比表 3	1 3 0
表 3 遺物対比表 1	1 2 8	表 6 遺物対比表 4	1 3 1

図版目次

図版 1	1. 第 15 次調査区 全景 2. 第 15 次調査区 SB16 北東から	図版 15	1. 第 18 次調査区 SH38 東から 2. 第 18 次調査区 SK15 北から 3. 第 18 次調査区 SK15 遺物出土状況	図版 28	1. 第 21 次調査区 SP21-220 2. 第 21 次調査区 SA 南西から 3. 第 21 次調査区 SK28 南西から
図版 2	1. 第 15 次調査区 SB17 北東から 2. 第 15 次調査区 SH30 南から	図版 16	1. 第 18 次調査区 SP18-293 2. 第 18 次調査区 SH40・41 北東から 3. 第 18 次調査区 SH42 西から	図版 29	1. 第 21 次調査区 SD 遺物出土状況 2. 第 22 次調査区 全景 3. 第 22 次調査区 遠景 南から
図版 3	1. 第 15 次調査区 SB31 2. 第 15 次調査区 SP15-062 3. 第 15 次調査区 遠景 南から	図版 17	1. 第 18 次調査区 SK16 北から 2. 第 18 次調査区 SA1 ~ 5 西から 3. 第 18 次調査区 遠景 北東から	図版 30	1. 第 22 次調査区 SX 遺物出土状況 2. 第 22 次調査区 SP22-245 3. 第 22 次調査区 SD29 遺物出土状況
図版 4	1. 第 16 次調査区 SH32 東から 2. 第 16 次調査区 SK9 北から 3. 第 16 次調査区 SK10 南から	図版 18	1. 第 19 次調査区 全景 2. 第 19 次調査区 北側 全景 3. 第 19 次調査区 SH43 北から	図版 31	1. 第 22 次調査区 SK28 北から 2. 第 22 次調査区 SB23 北から 3. 第 22 次調査区 SB22 北から
図版 5	1. 第 16 次調査区 全景 2. 第 16 次調査区 全景 北から 3. 第 16 次調査区 全景 東から	図版 19	1. 第 19 次調査区 SH44 北東から 2. 第 19 次調査区 SH45 3. 第 19 次調査区 SH46	図版 32	1. 第 22 次調査区 SB22・23 SD30 2. 第 22 次調査区 SB24 南から 3. 第 22 次調査区 SB26 南東から
図版 6	1. 第 17 次調査区 全景 2. 第 17 次調査区 SZ1 南東から	図版 20	1. 第 19 次調査区 SK17 東から 2. 第 19 次調査区 SK18 西から 3. 第 19 次調査区 SK19 南西から	図版 33	1. 第 23 次調査区 全景 2. 第 23 次調査区 SK34・35 南西から 3. 第 23 次調査区 SK35 遺物出土状況
図版 7	1. 第 17 次調査区 SZ1 東横 2. 第 17 次調査区 SZ1 南横 3. 第 17 次調査区 SZ1 東横	図版 21	1. 第 19 次調査区 SP19-110 北東から 2. 第 19 次調査区 SP-330 東から 3. 第 19 次調査区 SD24 北から	図版 34	1. 第 23 次調査区 SK30 西から 2. 第 23 次調査区 SK31 3. 第 23 次調査区 SK33
図版 8	1. 第 17 次調査区 SZ2 北東から 2. 第 17 次調査区 SZ2 西から	図版 22	1. 第 19 次調査区 SH47 北西から 2. 第 19 次調査区 SD 北から 3. 第 19 次調査区 SD 北東から	図版 35	1. 第 23 次調査区 SB27 北から 2. 第 23 次調査区 SB28 南から 3. 第 24 次調査区 全景
図版 9	1. 第 17 次調査区 SZ1 東横 2. 第 17 次調査区 SZ2 北横 3. 第 17 次調査区 SZ2 西横	図版 23	1. 第 20 次調査区 全景 2. 第 20 次調査区 SB20 北から 3. 第 20 次調査区 SK21・SH51 南東から	図版 36	1. 第 24 次調査区 SB29 南から 2. 第 24 次調査区 SB30 北から 3. 第 24 次調査区 SB31・SK38 南西から
図版 10	1. 第 17 次調査区 SK11 東から 2. 第 17 次調査区 SK12 北から 3. 第 17 次調査区 SK14 北東から	図版 24	1. 第 20 次調査区 SH50 東から 2. 第 20 次調査区 SH52 南西から 3. 第 20 次調査区 SP28 遺物出土状況	図版 37	1. 第 24 次調査区 SB32 東から 2. 第 24 次調査区 SK36 南から 3. 第 24 次調査区 SK37 南から
図版 11	1. 第 17 次調査区 SK13 西から 2. 第 17 次調査区 SB34 南西から 3. 第 17 次調査区 SH35 北東から	図版 25	1. 第 20 次調査区 SD28 南西から 2. 第 20 次調査区 SK21 南西から 3. 第 20 次調査区 SK22 東から	図版 38	1. 第 24 次調査区 SK38 南東から 2. 第 25 次調査区 全景 3. 第 25 次調査区 SK39
図版 12	1. 第 17 次調査区 SH36 2. 第 17 次調査区 SH37 北東から 3. 第 17 次調査区 遺物出土状況 1	図版 26	1. 第 20 次調査区 SK23 北西から 2. 第 20 次調査区 SK24 北西から 3. 第 20 次調査区 SK26 南東から	図版 39	1. 第 25 次調査区 SP25-090 2. 第 26 次調査区 全景 3. 第 26 次調査区 南側全景
図版 13	1. 第 17 次調査区 遺物出土状況 2 2. 第 17 次調査区 SP17-061 遺物出土状況 3. 第 17 次調査区 調査風景	図版 27	1. 第 20 次調査区 SP20-190 東から 2. 第 21 次調査区 遠景 南西から 3. 第 21 次調査区 SH52 北から	図版 40	1. 第 26 次調査区 北側全景 2. 第 26 次調査区 SP26-001 3. 第 26 次調査区 SP26-290

図版 41

1. 第26次調査区 SP 遺物出土状況
2. 第26次調査区 SP26-210
3. 第27次調査区 全景

図版 42

1. 第27次調査区 SK34 南から
2. 第27次調査区 SK43 南から
3. 第27次調査区 SK40 南東から

図版 43

1. 第27次調査区 SZ4 SW69 南東から
2. 第27次調査区 SW66 SP27-092 南西から
3. 第27次調査区 SK42 SW70 北西から

図版 44

1. 第28次調査区 全景
2. 第28次調査区 SH71・72 東から
3. 第28次調査区 SH75 南東から

図版 45

1. 第28次調査区 SK44 北から
2. 第28次調査区 SK45 東から
3. 第28次調査区 SK46 南西から

図版 46

1. 第28次調査区 SZ5 東から
2. 第28次調査区 SO32 北側 南東から
3. 第28次調査区 SO32 遺物出土状況

図版 47

1. 第28次調査区 SO32 遺物出土状況
2. 第29次調査区 全景
3. 第29次調査区 南側

図版 48

1. 第29次調査区 SK49 東から
2. 第29次調査区 SK49 北から
3. 第29次調査区 SK48 東から

図版 49

1. 第17次調査区出土遺物 7-1
2. 第17次調査区出土遺物 7-2
3. 第17次調査区出土遺物 7-3
4. 第17次調査区出土遺物 7-4
5. 第17次調査区出土遺物 7-8
6. 第17次調査区出土遺物 7-9
7. 第17次調査区出土遺物 7-10
8. 第17次調査区出土遺物 7-11

図版 50

1. 第17次調査区出土遺物 7-12
2. 第17次調査区出土遺物 7-13
3. 第17次調査区出土遺物 7-15
4. 第17次調査区出土遺物 7-16
5. 第17次調査区出土遺物 7-17
6. 第17次調査区出土遺物 7-18
7. 第17次調査区出土遺物 7-19
8. 第17次調査区出土遺物 7-21

図版 51

1. 第17次調査区出土遺物 7-23
2. 第17次調査区出土遺物 7-24
3. 第17次調査区出土遺物 7-25
4. 第17次調査区出土遺物 7-26
5. 第17次調査区出土遺物 7-27
6. 第17次調査区出土遺物 7-28
7. 第17次調査区出土遺物 7-29
8. 第17次調査区出土遺物 7-30

図版 52

1. 第17次調査区出土遺物 7-31
2. 第17次調査区出土遺物 7-32
3. 第17次調査区出土遺物 7-34
4. 第17次調査区出土遺物 7-36
5. 第17次調査区出土遺物 7-37
6. 第17次調査区出土遺物 7-38
7. 第17次調査区出土遺物 7-40
8. 第17次調査区出土遺物 7-42

図版 53

1. 第17次調査区出土遺物 7-43
2. 第17次調査区出土遺物 7-45
3. 第17次調査区出土遺物 7-46
4. 第17次調査区出土遺物 7-47
5. 第17次調査区出土遺物 7-49
6. 第17次調査区出土遺物 7-51
7. 第17次調査区出土遺物 7-52
8. 第17次調査区出土遺物 7-53

図版 54

1. 第17次調査区出土遺物 7-54
2. 第17次調査区出土遺物 7-55
3. 第17次調査区出土遺物 7-56
4. 第17次調査区出土遺物 7-57
5. 第17次調査区出土遺物 7-58

6. 第18次調査区出土遺物 8-3
7. 第18次調査区出土遺物 8-10
8. 第18次調査区出土遺物 8-12

図版 55

1. 第19次調査区出土遺物 9-1
2. 第19次調査区出土遺物 9-2
3. 第19次調査区出土遺物 9-3
4. 第19次調査区出土遺物 9-4
5. 第19次調査区出土遺物 9-6
6. 第19次調査区出土遺物 9-7
7. 第19次調査区出土遺物 9-8
8. 第19次調査区出土遺物 9-9

図版 56

1. 第19次調査区出土遺物 9-10
2. 第19次調査区出土遺物 9-11
3. 第19次調査区出土遺物 9-12
4. 第19次調査区出土遺物 9-13
5. 第19次調査区出土遺物 9-14
6. 第19次調査区出土遺物 9-15
7. 第19次調査区出土遺物 9-17
8. 第19次調査区出土遺物 9-18

図版 57

1. 第19次調査区出土遺物 9-19
2. 第19次調査区出土遺物 9-20
3. 第19次調査区出土遺物 9-21
4. 第19次調査区出土遺物 9-23
5. 第19次調査区出土遺物 9-25
6. 第19次調査区出土遺物 9-26
7. 第20次調査区出土遺物 10-2
8. 第20次調査区出土遺物 10-4

図版 58

1. 第20次調査区出土遺物 10-5
2. 第20次調査区出土遺物 10-6
3. 第20次調査区出土遺物 10-9
4. 第20次調査区出土遺物 10-9
5. 第20次調査区出土遺物 10-13
6. 第20次調査区出土遺物 10-14
7. 第20次調査区出土遺物 10-15
8. 第20次調査区出土遺物 10-16

図版 59

1. 第20次調査区出土遺物 10-18
2. 第20次調査区出土遺物 10-19
3. 第20次調査区出土遺物 10-20
4. 第20次調査区出土遺物 10-22
5. 第20次調査区出土遺物 10-24
6. 第20次調査区出土遺物 10-26
7. 第20次調査区出土遺物 10-29
8. 第22次調査区出土遺物 12-2

図版 60

1. 第22次調査区出土遺物 12-5
2. 第23次調査区出土遺物 13-1
3. 第23次調査区出土遺物 13-2
4. 第23次調査区出土遺物 13-3
5. 第23次調査区出土遺物 13-4
6. 第23次調査区出土遺物 13-5
7. 第23次調査区出土遺物 13-6
8. 第23次調査区出土遺物 13-7

図版 61

1. 第23次調査区出土遺物 13-8
2. 第23次調査区出土遺物 13-9
3. 第23次調査区出土遺物 13-10
4. 第23次調査区出土遺物 13-13
5. 第23次調査区出土遺物 13-14
6. 第23次調査区出土遺物 13-16
7. 第23次調査区出土遺物 13-17
8. 第23次調査区出土遺物 13-18

図版 62

1. 第23次調査区出土遺物 13-22
2. 第24次調査区出土遺物 14-1
3. 第24次調査区出土遺物 14-2
4. 第24次調査区出土遺物 14-3
5. 第24次調査区出土遺物 14-4
6. 第24次調査区出土遺物 14-5
7. 第24次調査区出土遺物 14-6
8. 第24次調査区出土遺物 14-7

図版 63

1. 第24次調査区出土遺物 14-8
2. 第24次調査区出土遺物 14-10
3. 第24次調査区出土遺物 14-11
4. 第24次調査区出土遺物 14-12
5. 第24次調査区出土遺物 14-13
6. 第24次調査区出土遺物 14-14
7. 第24次調査区出土遺物 14-15

図版 64

1. 第24次調査区出土遺物 14-17
2. 第24次調査区出土遺物 14-18
3. 第24次調査区出土遺物 14-19
4. 第24次調査区出土遺物 14-20
5. 第24次調査区出土遺物 14-21
6. 第24次調査区出土遺物 14-22
7. 第24次調査区出土遺物 14-24
8. 第24次調査区出土遺物 14-26

図版 65

1. 第24次調査区出土遺物 14-27
2. 第24次調査区出土遺物 14-28
3. 第24次調査区出土遺物 14-29
4. 第24次調査区出土遺物 14-30
5. 第24次調査区出土遺物 14-31
6. 第24次調査区出土遺物 14-32
7. 第24次調査区出土遺物 14-33
8. 第25次調査区出土遺物 15-1

図版 66

1. 第25次調査区出土遺物 15-2
2. 第25次調査区出土遺物 15-3
3. 第25次調査区出土遺物 15-4
4. 第26次調査区出土遺物 16-1
5. 第26次調査区出土遺物 16-2
6. 第26次調査区出土遺物 16-3
7. 第27次調査区出土遺物 17-1
8. 第27次調査区出土遺物 17-2

図版 67

1. 第27次調査区出土遺物 17-3
2. 第27次調査区出土遺物 17-4
3. 第27次調査区出土遺物 17-5
4. 第27次調査区出土遺物 17-6
5. 第27次調査区出土遺物 17-7
6. 第27次調査区出土遺物 17-8
7. 第28次調査区出土遺物 18-1
8. 第28次調査区出土遺物 18-2

図版 68

1. 第28次調査区出土遺物 18-3
2. 第28次調査区出土遺物 18-4
3. 第28次調査区出土遺物 18-5
4. 第28次調査区出土遺物 18-6
5. 第28次調査区出土遺物 18-7
6. 第28次調査区出土遺物 18-8
7. 第29次調査区出土遺物 19-1
8. 第29次調査区出土遺物 19-2

図版 69

1. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品正面
2. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品背面
3. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品右側面
4. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品左側面
5. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品上部
6. 第17次調査区 SK11 銅鐸形土製品底部

第1章 遺跡の位置と環境

1 節 地理的環境

袋井市は静岡県西部に位置し、遠州灘に臨んでいる。南北に長い市域の北東から西側にかけて太田川が通り、中央部では掛川市より流れる原野谷川がその流れを南に向け、太田川と合流し太平洋へ注いでいる。原野谷川の北側には旧東海道の宿場町として発展した袋井地区、南側にはJR東海道本線袋井駅を中心とする高尾地区が位置している。太田川、原野谷川の両岸には沖積地が広がり、袋井市の穀倉地帯となっている。市の南東部には小笠山丘陵があり、小笠沢川や弁財天川、三沢川などの小河川により谷が形成され入り組んだ地形を呈している。

大門遺跡はJR袋井駅の南側、小笠山西北山麓の標高約16mを測る段丘の先端に位置する。この段丘をまわるように、北～西側に原野谷川が流れる。JR東海道本線によって段丘は南北に分断されているが、明治21年に開通した東海道鉄道建設のために掘削されたものであり、以前は陸続きであった。現在、JR東海道本線の北側を掛之上遺跡、南側を大門遺跡として登録しているが、ひとつの大きな集落であったと考えられている。大門遺跡の南側は尾根間の谷で、近年まで水田地帯であった。

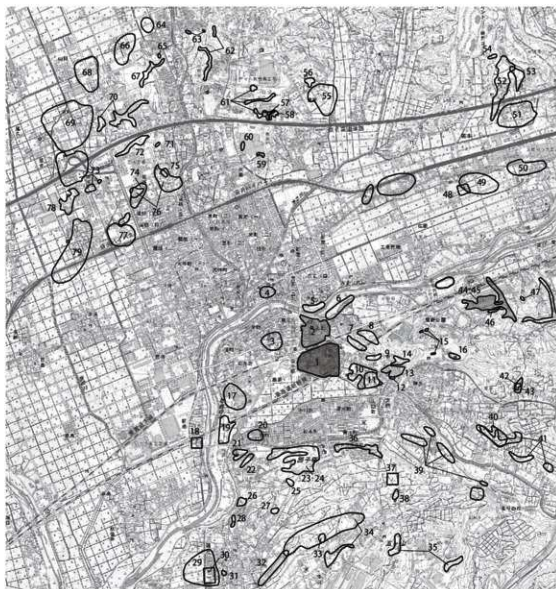
2 節 歴史的環境

小笠山丘陵上で縄文時代の集落が2箇所確認されている。縄文時代中期の長者平遺跡と、後期の大畑遺跡である。住居跡や土坑墓のほか、貝塚が見つかった。

弥生時代中期から後期にかけて市内の遺跡の数は大幅に増加する。稲作の伝来にともない太田川、原野谷川が造る沖積地に集落を築くようになったと推測される。太田川の自然堤防沿いに鶴松遺跡、徳光遺跡、堀越ジョウヤマ遺跡、土橋遺跡などが並んで確認され、土器や木製品なども良好な保存状態で残されていた。一方、小笠山丘陵上では大門・掛之上遺跡のほか、周囲の丘陵上でも竪穴住居や方形周溝墓群が確認されている。掛之上遺跡は周辺の区画整理事業にともない、これまでに106次にもわたる発掘調査が行われ、弥生時代の方形周溝墓群や竪穴住居が発見された。大門遺跡の南側の丘陵上には団子塚遺跡があり、弥生時代中期の墓域や後期の集落が確認され、大門遺跡の墓域とも推測されている。愛野向山Ⅱ遺跡では、丘陵を切り込んで造られた竪穴住居や土壇墓などが確認された。土壇墓より小銅鐸が出土している。

古墳時代の遺跡としては、大門遺跡の範囲内に6世紀前半の円墳である大門大塚古墳がある。円礫小口積の横穴式石室で、須恵器や金銅製馬具・刀剣類・トンボ玉が出土した。大門遺跡の南側の丘陵では石室を持つ団子塚古墳群が、大門遺跡の東側では地蔵ヶ谷横穴群・金山横穴群などの横穴墓群が確認されており、古墳時代後期に異なる墓制が取り入れられている点の特徴である。

奈良時代の遺跡では、掛之上遺跡は山名郡衙である可能性が指摘されている。中央部（第15・16・18次調査区）から地方官衙の正倉と見られるロ字型に配置された大型掘立柱建物群が、その西側の政庁区とみられる場所から長殿風建物や、それらを区画する幅4mの溝が検出された。また、大門遺跡においても同時期の2棟の総柱建物が確認されており、郡衙にともなう建物と推測されている。しかし、当該時期の出土物が少ないこと、文字資料の出土がないことから、具体的な役所名は明確ではない。坂尻遺跡ではこれまでの調査により、柵列に囲まれた掘立柱建物やかまどをとまわらない竪穴住居が発見され、出土した墨書土器から佐野郡衙の厨家や駅家であると推定されている。



- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 1 大門道路 | 20 高尾向山Ⅱ道路 | 41 長者平古墳群 | 62 道ヶ谷古墳群 |
| 2 掛之上遺跡 | 21 谷坂古墳群 | 42 宝野金山遺跡 | 62 道ヶ谷古墳群 |
| 3 三門遺跡 | 22 北山道路・古墳群 | 43 宝野金山古墳群 | 63 道ヶ谷横穴群 |
| 4 袋井宿遺跡 | 23 団子塚古墳群 | 44 愛野向山Ⅱ遺跡 | 64 川田道路 |
| 5 方丈遺跡 | 24 団子塚遺跡 | 45 愛野向山古墳群 | 65 北の谷横穴群 |
| 6 小野田遺跡 | 25 北原遺跡 | 46 愛野向山横穴群 | 66 鶴田Ⅰ遺跡 |
| 7 地藏ヶ谷遺跡 | 26 山須遺跡・古墳群 | 47 愛野向山古墳群 | 67 鶴松Ⅰ号墳 |
| 8 地藏ヶ谷横穴群 | 27 諸井大学院遺跡 | 48 眞名氏館跡 | 68 鶴田Ⅱ遺跡 |
| 9 井守塚古墳群 | 28 王子遺跡・古墳群 | 49 国本Ⅱ遺跡 | 69 鶴松遺跡 |
| 10 大門山古墳群 | 29 諸井十二所遺跡 | 50 国本Ⅰ遺跡 | 70 機ヶ谷古墳群 |
| 11 大門Ⅲ遺跡 | 30 諸井十二所居館 | 51 不入斗Ⅰ遺跡 | 71 八幡山横穴群 |
| 12 丸尾氏館 | 31 桶宮遺跡 | 52 浅間山遺跡 | 72 ボン坂横穴群 |
| 13 堂下横穴群 | 32 眞名地遺跡 | 53 不入斗Ⅱ遺跡 | 73 徳光遺跡 |
| 14 堂下遺跡 | 33 浅羽北原遺跡 | 54 東山道路 | 74 堀越ジョウヤマ遺跡 |
| 15 洪養神社上古墳群 | 34 眞名地古墳群 | 55 久野城跡 | 75 海蔵寺古墳群 |
| 16 金山古墳群 | 35 五ヶ山古墳群 | 56 蔵王権現神社遺跡 | 76 堀越城跡 |
| 17 金山遺跡 | 36 高尾向山Ⅰ遺跡 | 57 久能東山遺跡 | 77 堀越遺跡 |
| 18 関口遺跡 | 37 平芝陣屋跡 | 58 日吉神社裏横穴群 | 78 小山角田遺跡 |
| 19 加賀爪氏館 | 38 浅間神社古墳 | 59 栗別所横穴群 | 79 土橋遺跡 |
| | 39 雲塚古墳群 | 60 栗別所古墳群 | |
| | 40 雲塚東端遺跡 | 61 久能東山古墳群 | |

図1. 遺跡地図

3 節 大門遺跡の調査履歴

掛之上遺跡や大門遺跡の存在は古くから知られていたようで、昭和5(1930)年発行の「静岡県史」には簡単な記述が見られる。昭和37(1962)年に始まる東海道新幹線の建設にともない、大門遺跡で本格的な調査が行われた。その後も袋井南公民館(現袋井南コミュニティセンター)周辺の整備関連の発掘調査が複数回にわたって行われたが、いずれも遺跡の東半に集中している。遺跡西半(田端地内)での発掘調査は、袋井駅南都市拠点土地面整理事業にともなう平成30年度の発掘調査が初となる。

以前はJR東海道本線近くの累徳寺付近を大門Ⅱ遺跡、袋井市立中央・南公民館付近を大門Ⅰ遺跡と呼称してきたが、同一遺跡である結果を得たことにより平成18年に範囲を統合して大門遺跡の名称に改めた。

表1. 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧

遺跡名	調査名称	調査年度	調査原因	調査主体	調査概略
大門Ⅰ遺跡	第1次	昭和37年度	東海道新幹線建設	静岡県教委	遺構は検出は無く、弥生時代中期～後期、古墳時代前期、奈良時代の土器が出土した。
	第2次	昭和57年度	袋井南公民館建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の竪穴状遺構、大型竪立柱建物、方形周溝墓等。古墳時代～奈良時代の大型竪立柱建物、鎌倉時代の竪立柱建物、土質墓等が検出され、弥生土器、須恵器、中近世の陶磁器が出土した。
	第3次	昭和58年度	袋井南公民館外構建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の土坑、柱穴が検出され、弥生土器、石器、古墳時代後期末～奈良時代、鎌倉・室町時代の土器・陶器が出土した。
	第4次	昭和62年度	袋井市消防団消防車庫建設	袋井市教委	弥生時代中期～後期の竪穴住居、土坑、古墳時代前期の竪立柱建物、江戸時代の溝等が検出され、弥生土器、石器、須恵器が出土した。
	第5次	平成元年度	袋井市保健センター建設	袋井市教委	弥生時代後期・古墳時代後期の土坑や溝、鎌倉時代の竪立柱建物、古墳時代後期、弥生土器片及び須恵器、中近世の陶磁器が出土した。
大門遺跡	第6次	平成18年度	店舗建設	袋井市教委	古墳時代の竪穴住居及び土坑を検出し、弥生土器が出土。
	第7次	平成19年度	市道田端掛之上線建設工事	袋井市教委	弥生時代の竪穴住居及び土坑・溝を検出し、弥生土器が出土。
	第8次	平成18年度～21年度	地方道路整備	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	弥生時代の竪穴住居及び方形周溝墓、土坑、中世の溝を検出し、弥生土器、石器、中世陶磁器が出土。
	第9次	平成19年度	個人住宅建設	袋井市教委	弥生時代の土坑等を検出し、弥生土器が出土。
	第10次	平成20年度	市道田端掛之上線建設	袋井市教委	古墳時代の竪穴住居及び土坑を検出し、弥生土器・土師器等が出土。
	第11次	平成21年度	個人住宅駐車場建設	袋井市教委	弥生時代から奈良時代の土坑等を検出し、弥生土器等が出土。
掛之上遺跡	第1次	昭和49年度	袋井駅南土地面整理事業	袋井市教委	弥生時代中期～後期の方形周溝墓等、古墳時代の竪立柱建物、孤塚古墳の前方部、鎌倉時代～江戸時代の土質墓等が検出された。
	第2次	昭和57年度	個人住宅建設	袋井市教委	弥生時代の方形周溝墓、土質墓等、江戸時代末期の住宅が検出された。
	第3次	昭和63年度	駅前第一区画整理事業	袋井市教委	弥生時代の方形周溝墓、奈良時代の大型竪立柱建物等が検出された。
	第4次	平成9年度	原野谷川社会環境基盤重点河川事業	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の竪立柱建物等が検出された。
	第5次～第106次	平成11年度～25年度	駅前第二区画整理事業	袋井市教委	弥生時代中期～後期の方形周溝墓等、古墳時代の豪族居館、奈良時代の都御正倉等が検出された。

2章 事業にいたる経緯

大門遺跡の所在する袋井市高尾にはJR袋井駅があり、市の中心地として開発が進められてきた。昭和47～平成9年にかけて北商店街エリアの袋井駅前第一土地区画整理事業が、平成10～27年にかけて袋井駅前第二土地区画整理事業が行われ、袋井駅周辺の姿は大きく変化した。これらの土地区画整理事業の範囲内には掛之上遺跡が所在し、106次に渡って発掘調査が実施された。

今回の発掘調査は、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業にともなうものである。JR袋井駅南口周辺の田端地区を主な対象とした区画整理事業で、その対象地の半分以上が周知の埋蔵文化財「大門遺跡」の範囲内である。平成26年8月26～28日に確認調査を実施し、遺跡の範囲と深さの確認を行った。その結果、おおよそ従来登録されていた範囲の地下20～80cmで包含層や遺構を確認することができた。その後の土地区画整理組合との協議の結果、遺跡範囲内の大部分は切土による宅地造成が行われるため、発掘調査が必要とされる箇所は計約40,000㎡を超えることが分かった。区画整理事業の進捗と合わせて、平成30年から部分的に発掘調査を開始した。

平成29年10月16日付けで袋井市袋井駅南都市拠点土地区画整理組合より「発掘調査依頼書」が提出されたことから、平成30年5月2日付けで静岡県教育委員会教育長あてに、文化財保護法93条の1において「埋蔵文化財発掘の届出書」を提出する。静岡県教育委員会より6月6日付け教文第433号の2において、発掘調査の指示があった。発掘調査の範囲については、袋井市袋井駅南都市拠点土地区画整理組合と協議の上決定している。平成30年度に第12～14次調査を実施し、令和元年度は2か年目となる。発掘調査と併行して、出土遺物の洗浄・接合・注記などの基礎整理作業や、図面の整理作業、土器実測を実施した。令和2年度より報告書作成作業を開始し、本書は整理作業が終了した第15次調査地区から第29次調査区までの成果を報告する。

表2. 大門遺跡・掛之上遺跡発掘調査一覧

調査区	現地作業	面積 (㎡)
第15次調査	平成31年3月5日～4月21日	259
第16次調査	令和元年5月7日～5月31日	424
第17次調査	令和元年6月3日～8月22日	763
第18次調査	令和元年8月21日～10月11日	989
第19次調査	令和元年10月15日～12月6日	736
第20次調査	令和元年12月9日～令和2年2月7日	739
第21次調査	令和2年2月12日～3月17日	1,231
第22次調査	令和2年4月16日～5月22日	418
第23次調査	令和2年5月21日～8月19日	660
第24次調査	令和2年6月24日～10月21日	680
第25次調査	令和2年8月18日～11月25日	382
第26次調査	令和2年10月5日～11月10日	697
第27次調査	令和2年11月9日～12月21日	664
第28次調査	令和3年1月8日～2月25日	644
第29次調査	令和3年1月29日～3月10日	250



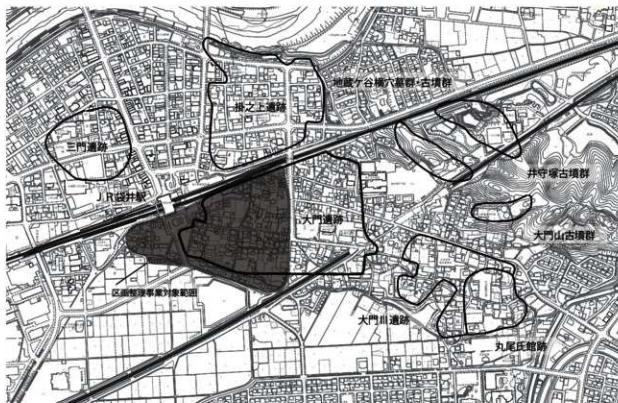


図2. 袋井駅南土地区画整理事業の範囲と大門遺跡

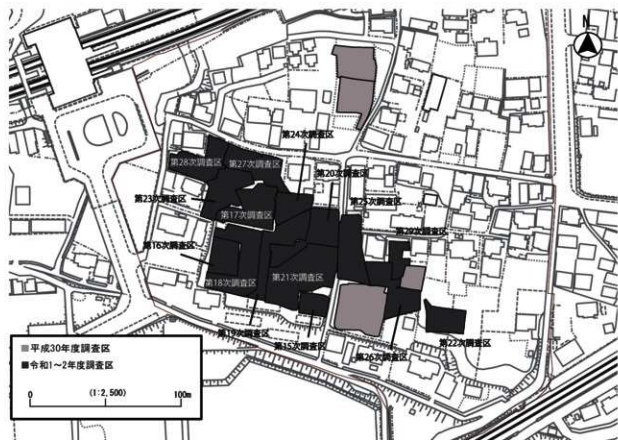


図3. 令和元年度～2年度 調査区位置図

3 章 調査の方法と体制

1 節 調査の方法

発掘調査対象地は合計約 42,000 m²に相当するため、平成 30 複数年度に分けて調査を実施する。令和元年度はその 2 か年目となる。発掘調査を行う場所は区画整理事業の計画に沿い、土地区画整理組合および袋井市都市計画課と協議して決定した。事前に既存建物の解体・撤去のうえ、発掘調査を開始する。表土はバックホーにて除去した。基準点測量は(株)フジヤマに委託し、光波測距儀によって行った。全体図についても(株)フジヤマに委託し、空中測量から 1/50 及び 1/200 スケールの図面を作成した。個別の遺構図は必要に応じ 1/20 もしくは 1/10 スケールで人力により作図した。空中写真撮影は(株)フジヤマに委託し、ラジコンヘリにモノクロフィルムカメラ、デジタルカメラを搭載し撮影を行った。そのほかの写真は、デジタルカメラ(一眼レフ 620 万画素)を使用した。

2 節 調査日誌抄

平成31年度・令和元年度

- | 平成 31 年度・令和元年度 | | 2 月 7 日 (金) | |
|----------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 4 月 16 日 (月) | 第 15 次調査区(イ)空中写真撮影に向けて清掃。 | 第 20 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。 | |
| 4 月 18 日 (木) | 第 15 次調査区(イ)空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影 | 2 月 12 日 (木) | 第 21 次調査区(イ)調査を開始。直隴堀跡を実施。平面精査。 |
| 5 月 7・8 日(水・木) | 第 16 次調査区 直隴堀跡を実施。 | 2 月 14 日 (金) | 直隴堀跡及び平面精査。 |
| 5 月 9 日 (木) | 第 16 次調査区(イ)の平面精査。 | 2 月 27 日 (金) | 直隴堀跡の調査。 |
| 5 月 10 日 (金) | 個別の遺構の掘削を開始。 | 3 月 9 日 (月) | 跡路南縁跡のための試掘調査実施。 |
| 5 月 17 日 (金) | 土器出土状況の撮影。 | 3 月 17 日 (月) | 第 21 次調査区 空中写真撮影および測量を実施。個別の遺構の写真撮影。 |
| 5 月 24 日 (金) | 土器出土状況の撮影後、取り上げ。 | | |
| 5 月 27 日 (月) | 空堀に向けて遺構の清掃を開始。 | 令和 2 年度 | |
| 5 月 31 日 (金) | 第 16 次調査区(イ)空中写真撮影および測量を実施。 | 4 月 16 日 (木) | 直隴堀跡開始。今回の調査区を区Ⅰと区Ⅱとする。 |
| 6 月 3 日 (木) | 第 17 次調査区を開始。直隴堀跡を実施。 | 4 月 17 日 (金) | 直隴堀跡完了。 |
| 6 月 23 日 (水) | 直隴堀跡の完了。 | 4 月 21 日 (火) | 人形頭部開始。調査区Ⅱの調査、排水溝精査、竪石の清掃を行った。 |
| 6 月 30 日 (水) | 平面精査。 | 4 月 22 日 (水) | 遺構確認を行った。1 辺 2m 以上の方形の遺構が複数あり、建物と推定。 |
| 6 月 10 日 (木) | 個別の遺構の掘削を開始。 | 4 月 23 日 (木) | 区Ⅱの区Ⅰと区Ⅱの遺構の調査。 |
| 6 月 17 日 (月) | S21 と S22 に当たる軒を撤し掘削を開始。 | 4 月 24 日 (金) | 撤かす赤土土器が集中して出土土器を運び、周囲の遺構を進める。 |
| 6 月 19 日 (水) | S81 と S72 に当たる掘削を開始。赤土土器片を大量に含む。 | 4 月 27 日 (月) | 南西部の区Ⅱを区Ⅰ、十字に区Ⅱの境界線を設定し、掘削を始める。 |
| 7 月 26 日 (月) | S21 土器出土状況の調査。 | 4 月 28 日 (火) | 遺構開始。 |
| 7 月 16 日 (火) | S21 の土器出土状況の写真撮影。 | 4 月 30 日 (木) | 遺構開始。西側 1/3 が完成。 |
| 7 月 18 日 (木) | S21 土器出土状況の写真撮影。 | 5 月 7 日 (木) | シートの出土状況及び平面図。 |
| 7 月 25 日 (木) | S22 清掃中に軒を撤し掘削を進める。 | 5 月 8 日 (金) | シートの掘削調査。撤かす土器が出土した竹筒部を区Ⅱと推定。 |
| 7 月 31 日 (木) | 南側区Ⅱを区Ⅰ及び区Ⅱと協同で架設体敷き実施。 | 5 月 11 日 (月) | 総括作業。各遺構の遺物を取り上げる。 |
| 8 月 3 日 (月) | S22 調査地山頂直上ではほぼ完了の長距離を確立。 | 5 月 12 日 (火) | 穴穴式土器⑤のセクションの写真撮影。 |
| 8 月 6 日 (水) | S81 清掃し、土器出土状況の写真撮影。 | 5 月 13 日 (水) | 直隴堀跡開始。溝の内部に穴穴式土器⑤の破壊が確認しているところを推定。 |
| 8 月 9 日 (金) | S81 の取り上げ。適度で銅鐸土製品が出土。 | 5 月 14 日 (木) | 直隴堀跡の調査。 |
| 8 月 19 日 (月) | 空中写真撮影に向けて清掃を開始。 | 5 月 22 日 (火) | 直隴堀跡の調査。 |
| 8 月 21 日 (水) | 第 18 次調査区(イ)直隴堀跡を開始。 | 5 月 23 日 (水) | 直隴堀跡の調査。 |
| 8 月 22 日 (木) | 第 17 次調査区(イ)空中写真撮影および測量を実施。直隴堀跡。個別の遺構。 | 5 月 24 日 (木) | 直隴堀跡の調査。 |
| 8 月 29 日 (金) | S23 と土器取り上げ。17 次調査区完了。 | 5 月 25 日 (金) | 直隴堀跡の調査。 |
| 8 月 26 日 (月) | 第 18 次調査区(イ)の掘削を開始。平面精査。個別の遺構の掘削。 | 5 月 26 日 (土) | 直隴堀跡の調査。 |
| 9 月 3 日 (火) | 個別の遺構の掘削。 | 5 月 27 日 (日) | 直隴堀跡の調査。 |
| 9 月 5 日 (木) | 個別の遺構の掘削。 | 5 月 28 日 (月) | 直隴堀跡の調査。 |
| 9 月 9 日 (月) | 台風による水没の復旧。遺構開始。 | 5 月 29 日 (火) | 直隴堀跡の調査。 |
| 9 月 13 日 (木) | 個別の遺構の掘削。 | 5 月 30 日 (水) | 直隴堀跡の調査。 |

5月25日(月)	第23次調査区の人力掘削を開始。調査区東の遺構と、排水溝掘削実施。	掘削を開始する。	第29次調査区の遺構掘削を開始。
5月26日(火)	遺構確認を行う。	10月6日(火)	第24次調査区の清掃と白線引き。16区の遺構掘削が完了する。
5月27日(水)	北土部分の遺構掘削を開始。	10月7日(水)	第24次調査区上空壁と、個別の写真撮影を行う。併行して、第26次調査区の排水溝掘削を行う。
5月28日(木)	遺構掘削の時に確認できていた遺構を徹底的に掘削する。	10月12日(月)	第26次調査区の排水溝掘削を終え、遺構確認のために表面を作る。
6月2日(火)	6月より休養期間を夏休みに変更。	10月13日(火)	第26次調査区の遺構の掘削を開始する。
6月3日(水)	第24次調査区で土の持ち出し。	10月14日(水)	第24次調査区の土部掘り上げ及び第25次調査区の土部掘り上げの土部掘り上げ。
6月4日(木)	調査区北西部にある遺構の掘削。	10月15日(木)	第26次調査区南側の遺構掘削が完了する。南西隅で発生土部出土。
6月8日(月)	調査区北側は、一旦を置いて北土部分の掘削、南側の掘削に取り掛かる。	10月16日(金)	第26次調査区北側の掘削を開始。発生土部や土層が出土する。
6月9日(火)	土部掘り上げの土について写真撮影を行う。	10月20日(火)	第24次調査区の土部掘り上げ。
6月15日(月)	水抜きと共に、シートを保護板を全て外し、遺構の配置が分かる絵図を作成する。	10月21日(水)	第25次調査区地土部分に、土層観察のためサブソレンスを掘削。
6月16日(火)	調査区南西にある溝状の遺構から石壁が出土した。	10月22日(木)	土部が出土している部分を除いて、第26次調査区の掘削が終わる。
6月17日(水)	土坑の実測図を作成。	10月23日(金)	空壁と土層の掘削によりほぼ完成。
6月24日(水)	第24次調査区の遺構の掘削がほぼ完了。並行して、第24次調査区を遺構で掘削。	11月5日(火)	第26次調査区の清掃開始。
6月25日(木)	第24次調査区分の土層の作成後、シートを敷き詰め、雨の対策を行う。	11月9日(月)	雨水の排水及び清掃を行う。
7月15日(水)	第23次調査区の排水作業実施。午後から掘削作業を始める。	11月10日(火)	第26次調査区の清掃、併行して第27次調査区の遺構掘削を行う。
7月16日(木)	第23次調査区で遺構掘削が終わりに近づき、第24次調査区と並行して遺構掘削を行う。第24次調査区で遺構掘削の周りに排水溝を掘削した。	11月11日(水)	第27次調査区の調査区東の遺構や、排水溝掘削を行う。
7月20日(日)	第23次調査区東側の土坑から発生土部(遺)が完形で出土。	11月12日(木)	表面を作り、遺構確認をした。
7月21日(月)	第23次調査区の掘削が完了し、第24次調査区では掘削穴付近5軒を穴検出。	11月13日(金)	東側から遺構掘削を始める。東側は近世の遺構や埋土を多数確認する。
7月22日(火)	第24次調査区を土部から掘削開始。	11月16日(月)	第27次調査区の遺構掘削。
7月29日(水)	第24次調査区の水抜き後、掘削作業を再開。掘削穴付近の掘り下げながら、土層の掘削や重なりを確認。	11月17日(火)	第25次調査区の地土層を清掃。サブソレンスの写真撮影を行う。
8月3日(月)	空壁に向けて、第23次調査区の前壁を掘削。	11月19日(木)	地土サブソレンスの土層断面図を作成。建物壁が埋まると、火を焚いていることが判明。
8月4～5日(火・水)	第23次調査区上空壁に向けて清掃。	11月24日(火)	第27次調査区東側の掘削終了。西側へ移行。比較的大きい土坑や溝が複数確認。
8月6日(木)	第23次調査区上空壁を行う。午後から個別の写真撮影を行う。	11月25日(水)	地土部分を解体し、解体後の写真撮影をした。これで第25次調査区の仕事終了。
8月7日(金)	第23次調査区土部掘り上げ。第24次調査区で遺構掘削作業を再開。	12月1日(火)	第27次調査区西側の南西にある遺構掘削。
8月17日(月)	第25次調査区の水抜き等の掘削。	12月2日(水)	第27次調査区西側にある住居跡付近を、地土を残して掘り下げを実施。
8月18・19日(火・水)	第23次調査区の前壁掘削を終了。第25次調査区を遺構掘削を開始。	12月3日(木)	第27次調査区西側にある住居跡付近、遺構を中心に掘削。
8月20日(木)	第24次調査区の前壁穴付近の北端で土部掘り上げを確認。第25次調査区を遺構掘削が完了。	12月4日(金)	第27次調査区西側にある住居跡付近、遺構を中心に掘削。
8月25日(金)	第24次調査区を一時中断し、第25次調査区の仕事に取り掛かる。調査区東の遺構と排水溝の掘削。	12月14日(月)～16日(水)	空壁に向けて清掃、白線引き。
8月24・25日(月・火)	第25次調査区を遺構掘削を行う。	12月17日(木)	空壁、遺構の掘削。午後より遺構の写真撮影などを実施。
8月26～28日(水～金)	各遺構の掘り下げ。地土の周りに残った包帯等を掘ると、周囲で発生土部を確認。	12月18日(金)	個別の写真撮影や、土部掘り上げを実施。
9月1日(火)	第25次調査区を遺構掘削。	1月8日(金)	第28次調査区を遺構掘削を開始。資材や道具などの準備を行う。
9月2日(水)	地土で作られた壁状の内部にピンと確認。ピン内部の被褥を確認。	1月13日(木)	遺構掘削完了。調査区東の遺構を整え、排水溝の掘削を行う。
9月9日(火)～18日(金)	遺構掘削。	1月14日(金)	表面を作り、遺構確認をした後、北側から掘り始める。
9月28日(月)	第25次調査区上空壁に向けて清掃と準備。	1月15日(金)	遺構掘削。北側は埋土や、新しい時代の遺構がある。
9月29日(火)	第24次調査区の水抜き、土の移動。水抜き。第25次調査区を遺構掘削。	1月19日(火)	北側の掘削がほぼ終わったため、西側に向ってつらつら。
9月30日(水)	第24・25次調査区を遺構掘削を行う。地土が崩壊し、調査区の可能性を考慮。金風速知機で周囲を調査。	1月20日(水)	南北に走る溝、東西方向の落ち込みを掘り出す。溝の中からは、北・南の隅で発生土部と土部掘り上げを確認。
10月1日(木)	第25次調査区を遺構掘削。白線引き。	1月21日(木)	自然の谷地形による落ち込みを確認。
10月2日(金)	第25次調査区上空壁。遺構掘削の写真撮影。	1月26日(火)	調査区西側埋土谷状の地形を確認。
10月5日(月)	第24区を清掃。第26次調査区を遺構掘削。	1月29日(金)	第28次調査区を遺構掘削を行う。

第4章 発掘調査の成果

1 節 発掘調査範囲について

令和元年度は7箇所、2年度は8箇所に分けて発掘調査を実施し、順番に第15次調査区～第29次調査区の名称をつけた。それぞれの面積や調査時期については、2章をご覧ください。以下では調査区ごとに詳述する。なお、遺物の出土した遺構の番号は表3「遺物対比表」にまとめて記載している。

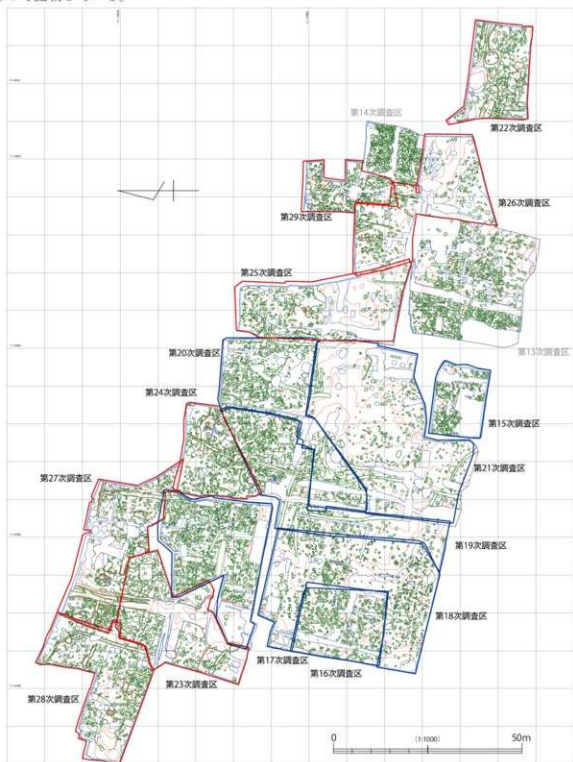


図4. 第15～29次調査区全体図 (1:1000)

2節 第15次調査区

大門遺跡の南端部に位置し、調査時期は、平成31年度3～4月、面積は259㎡である。道路を挟んで東側に13次調査区、北・西側に21次調査区が隣接する。15次調査区は大門遺跡の所在する尾根の端でもあり、南側は3m以上落ち込み、現在は調整池となっている。

基本層序は概ね以下のとおりである。

I層 黄褐色土 表土

II層 褐色土 遺物包含層

III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.3～0.7m除去した。遺構確認面の標高は13.8～14.1mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。

調査前はこの付近に温室が9棟立ち並び、メロン栽培が行われていた。調査区の南側は攪乱を受け、遺構はほとんど残存していない。弥生時代の竪穴住居2軒、掘立柱建物2棟のほか、土坑やピットを検出した。

2-1. 弥生時代の遺構・遺物

SB16 (図5)

北側一部が調査区外となるが、平面形は南北に長い楕円形と推測する。検出されたうち東側の3分の1程度はSB17と重複する。長軸6.35m、短軸残存3.8mを測る。壁溝と柱穴のみで、掘り方や貼床、炉跡は確認できなかった。壁溝の幅は0.18mである。四本柱が四角形に配置されていたと推測する。柱穴からは弥生土器の小片が出土しているが、図示できるものはない。

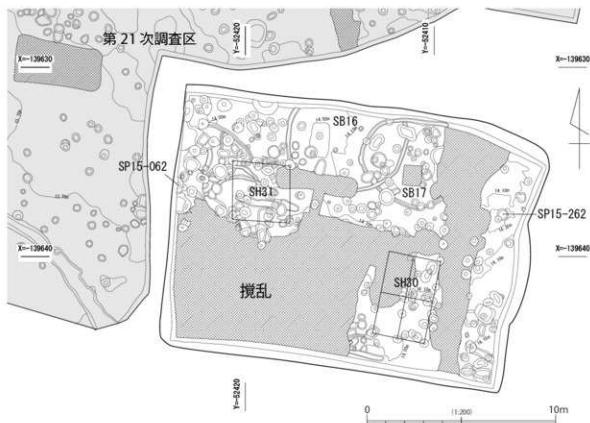


図5. 第15次調査区全体図 (1:200)

SB17 (図6)

平面形は東西に長い長楕円形で、住居の東端は近世の溝に切られており残存していない。長軸残存4.65 m、短軸4.86 mを測る。壁溝と柱穴のみで、掘り方や貼床、炉跡は確認できなかった。壁溝の幅は0.24 mである。四本柱が四角形に配置されていたと推測する。柱穴から菊川式土器の口縁部とみられる破片のほか、細片が多く時期の特定は難しく、図示できるものはない。

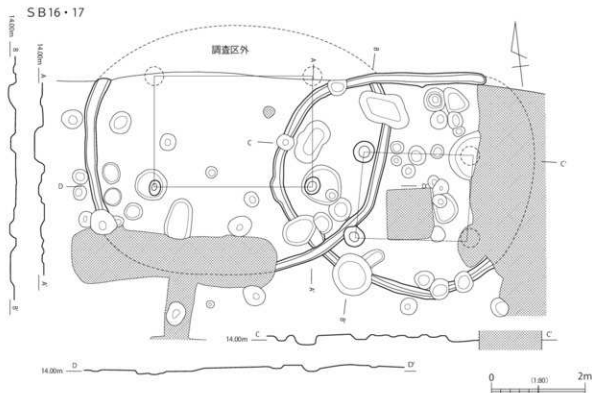


図6. 第15次調査区 SB16・17

2-2. 古墳時代の遺構・遺物

SH30 (図7)

梁間2間、桁行2間の建物で、一部攪乱を受け残存していないが総柱建物と推測する。遺構主軸はN-11°-Eである。遺構規模は梁行3.3 m、桁行4.8 mを測る。柱間1.0～1.82 m、柱穴径0.4～0.8 m、深さ0.2～0.29 mである。柱穴から須恵器片1点のほか、土師器の細片複数が出土しているが、図示できるものはない。

SH31 (図7)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-5.5°-Eである。遺構規模は梁行3.52 m、桁行3.52 mを測る。柱間2.48～2.56 m、柱穴径0.42～0.52 m、深さ0.21～0.42 mである。柱穴からは須恵器高坏脚部ほか、須恵器や土師器の細片が確認できた。細片が多く、図示できるものはない。

2-3. 奈良時代以降の遺構・遺物

SP15-062 (図5・7)

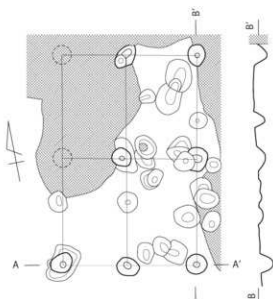
長径1.06 m、短径0.8 m、深さ約0.2 mのビット。西端は調査区外へ伸びており、もう一回り大きいと推測できる。暗褐色の覆土より高台付きの須恵器坏身片が出土した。底径10.7 cm、残存高2.1 cmで、内外面に炭粒が付着している。時期は8世紀前半と考えられる。ほかにも、

かわらけの破片と推測されるものが出土しているが、図示できるものはない。

SP15-262 (図5・7)

調査区の西側で確認された遺構で、南北長0.80m、東西確認長0.30m、深さ0.23mを測る墓塚である。平面形は楕円形となると見られ、西側が調査区外に及んでいるため正確な形状は不明である。覆土中から冥銭と見られる中国渡来銭（皇宋通宝・嘉祐通宝・紹興通宝・嘉熙通宝・2枚は判読不明）6枚が出土している江戸時代以前の土壌と考えられる。人骨の痕跡は残されておらず、火葬後の埋葬墓と考えられるが詳細は不明であり、直上に墓石のようなものは残されていない。

SH30



SH31

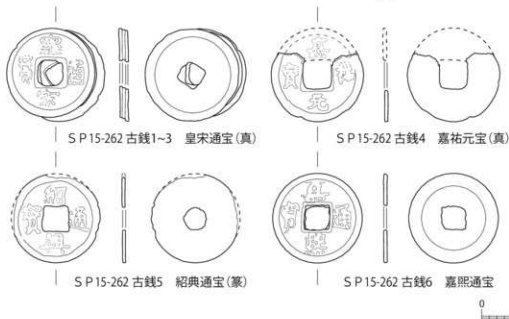
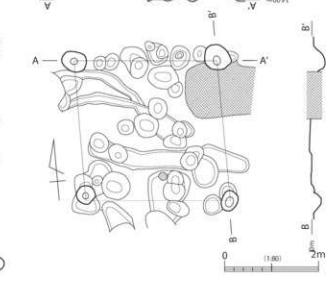


図7. 第15次調査区SH30・31 遺物実測図

3節 第16次調査区

遺跡の南端部に南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年5月、面積は424㎡である。16次調査区の周囲をコの字状に18次調査区が囲む。

西側の敷地は既に切土造成が行われ、2m以上の高低差がある。近隣住民の話によると、JR袋井駅周辺（現天理教大教会付近）の開発時に西側敷地の土を削って運んだそうである。丘陵そのものとしてはもう数十m西側に伸びており、遺跡の本来の範囲は西へ続いた可能性がある。

基本層序は概ね以下の通りである。

I層 黄褐色土 表土

II層 黒褐色土 遺物包含層

III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.45m除去した。遺構確認面の標高は13.2～13.8mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。弥生時代の堅穴住居1棟、古墳時代以降の掘立柱建物2棟のほか土坑やピットを検出した。調査区を十字に区切るように近代以降の擾乱がある。また、ピットより弥生土器の細片が出土したが、細片が多く実測できるものはない。



図8. 第16次調査区全体図 (1:200)

3-1. 弥生時代の遺構・遺物

SB18 (図9)

調査区西南側で確認された遺構で、その3分の2が調査区外に延び全容は明らかとなっていないが平面形は円形と推定される。推定直径は4.2 m、壁溝のみの検出で、掘り方や貼床は確認されていない。柱穴全てが調査区外となる。

3-2. 古墳時代の遺構・遺物

SK9 (図10)

5分の1程度が第18次調査区におよんでいる。平面形は南北に長い隅丸長方形で、長軸2.4 m、短軸1.4 mを測る。土師器片の出土がある。

SK10 (図10)

平面形は南北に長い隅丸長方形であったと見られるが、他の遺構との重複が激しい、推定長軸2.5 m、短軸1.0 mを測る。土師器杯の出土がある。

3-3. 奈良時代以降の遺構・遺物

SH32 (図10)

梁間1間、桁行3間の建物で、遺構主軸はN-13°-Eである。遺構規模は梁行3.3 m、桁行4.8 mを測り、SH1とL字形に隣接する位置にある。柱間0.73～0.96 m、柱穴径0.4～0.64 m、深さ0.21～0.36 mである。出土遺物はビットから須恵器・土師器が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

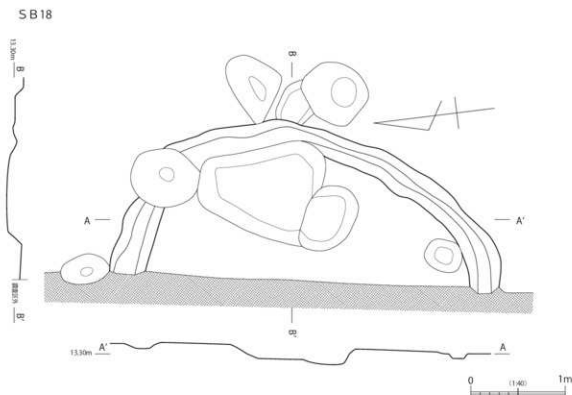


図9. 第16次調査区 SB18

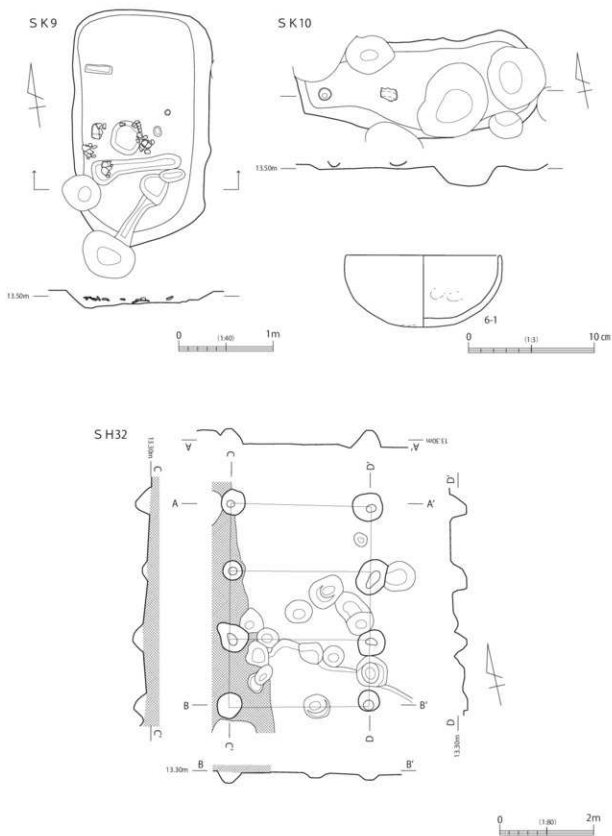


図 10. 第 16 次調査区 SK9・10 SH32

SH33 (図11)

梁間1間、桁行5間の建物で、遺構主軸はN-17°-Eである。遺構規模は梁行4m、桁行10mを測り、他の掘立柱建物と比較しても特別に大きい。柱間1.25～1.55m、柱穴径0.46～0.82m、深さ0.21～0.44mである。柱穴からは7世紀と推測される須恵器片や土師器が出土しているが、いずれも細片で図示できるものはない。

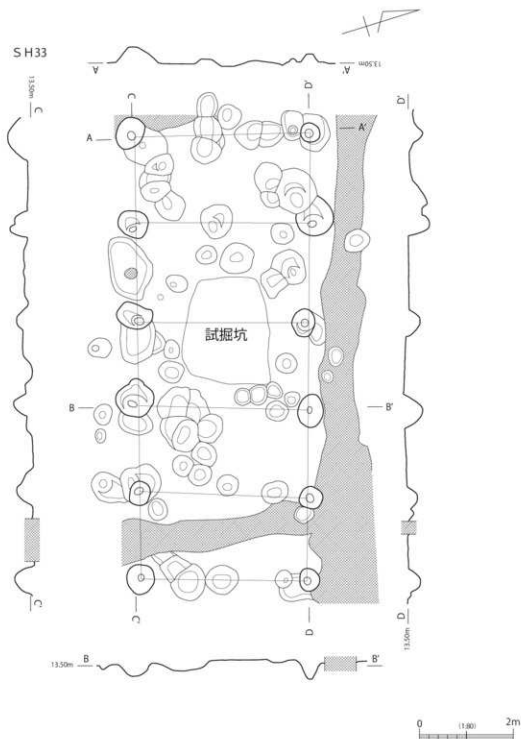


図11. 第16次調査区 SH33

4節 第17次調査区

遺跡の南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年6～8月、面積は763 m²である。西・北側に第23次調査区、東側に第24次調査区、南側に第18次調査区が隣接する。

基本層序は概ね以下の通りである。

I層 黄褐色土 表土

II層 黒褐色土 遺物包含層

III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.6 m除去した。遺構確認面の標高は13.4～14.1 mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。調査区の南西端では攪乱を受けており、遺構面は既に削平されていた。第17次調査区では、方形周溝墓3基、掘立柱建物4棟のほか土坑やピットを検出した。

4-1. 弥生時代の遺構・遺物

SZ1 (図13)

4方向の溝が揃う4隅切れ型の方形周溝墓。溝間の東西幅8.6 m、南北幅8.7 mとおおよそ正方形の方形周溝墓である。北溝と西溝の一部は攪乱を受け削平されている。西溝は隣接するSZ3東溝と重複している。

北溝は幅0.9 m、長さ3.5 m(残存)、深さ0.2 mを測る。弥生土器片が出土。東溝は幅1.0 m、長さ5.2 m(残存)、深さ0.4 mを測る。東溝からは特に大量の土器片が出土している。溝が半分程度埋没した付近から、弥生時代中期白岩式段階の特徴をもつ壺類が出土している。南溝は全形が唯一残存していて、幅0.9 m、長さ6.5 m、深さ0.5 mを測る。西溝は幅1.0 m、長さ4.6 m(残存)、深さ0.45 mを測る。遺物の出土状況から、弥生時代中期後葉白岩式のものと推測する。

SZ2 (図14)

北溝・西溝・東溝が揃う、四隅切れの方形周溝墓である。SZ1と隣接するが溝を共有していない。溝間の東西幅11.9 m、南北幅9.1 mを測る。北溝と東溝の間の溝は、出土遺物からSZ2と同時期のものではないと考えられる。

北溝は西端が調査区外へと延びている。幅1.9 m、長さ10 m、深さ0.45 mである。覆土中より弥生時代中期白岩式の特徴をもつ壺が多量に出土している。東溝は幅2.0 m、長さ5.8 m、深さ0.25 mで、南端は攪乱により削平されている。弥生時代中期白岩式の特徴をもつ壺などが出土している。西溝は幅2.2 m、長さ6.1 m、深さ0.3 mである。床面直上より壺底部の底部がついた状態で出土しており、流れ込みではなく据えられた可能性も考えられる。各溝からの遺物の出土状況から、弥生時代中期後葉白岩式のものとして推測され、SZ1と大きな時期差はない。

SZ3 (図15)

SZ1の西溝と同規模の溝が隣接していることから、方形周溝墓である可能性が高いと判断した。溝は幅1.5 m、長さ5.9 m(残存)、深さ0.2 mを測る。覆土は3層に分けることができ、上層から弥生時代中期中葉埴田式の細頸壺の口縁部が出土している。その後の周辺の発掘調査ではSZ3に対応すると推測される溝と見られる遺構は、第27次調査区で確認されたSZ1南周溝と重複し、調査区外へとおよぶ土坑状遺構が相当すると考えられるが、西周溝及び南周溝は確認できなかったため、全体形等は不明である。



図 12. 第 17 次調査区全体図 (1:200)

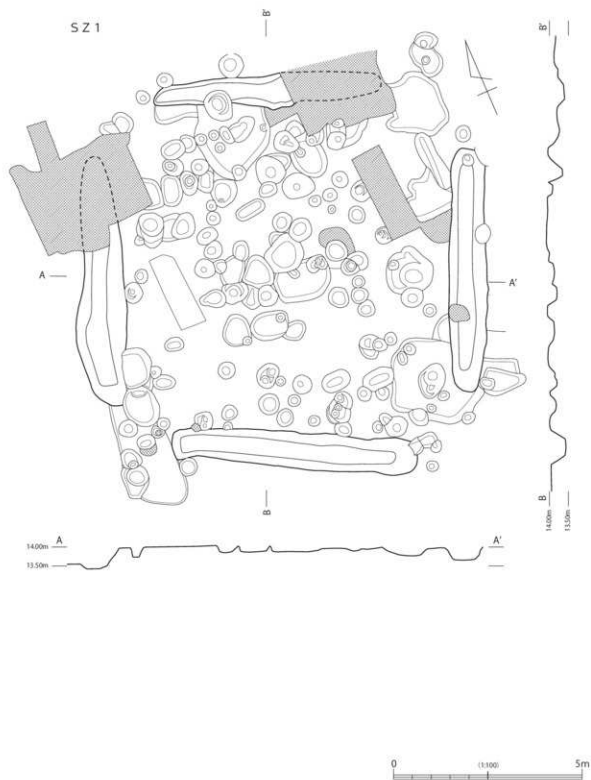


図 13. 第 17 次調査区 SZ 1

S Z 2

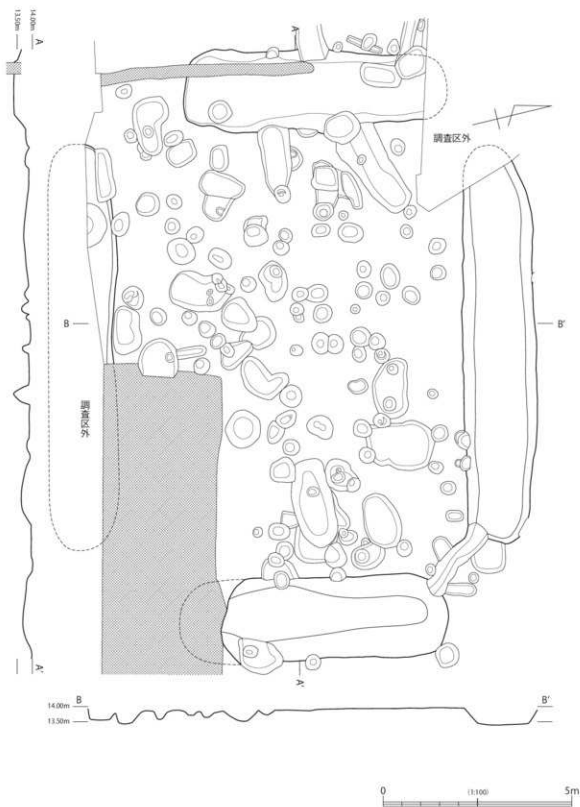


図 14. 第 17 次調査区 S Z 2

SK11 (図16)

SZ1 東溝と重複する位置にある土坑で、SZ1の覆土を切り込んで造られた。長径2.4 m、短径2.1 mを測り、中央部が最も深くなるように窪んでいて深さ約0.4 mである。SK11の覆土からは多量の弥生土器片が出土した。土器は中央部に集中していて、いずれも弥生時代後期菊川式の特徴をもつ、一括性の高い資料である。壺、高坏、台付甕など複数の器種がみられるが、50%以上に復元できるものはない。土器が集中して出土した箇所より、銅鐸形土製品が出土している。共伴する土器の状況などから、廃棄坑の可能性はある。

SK12 (図16)

長径2.9 m、短径1.3 m、深さ0.3の長楕円形の土坑である。床面付近で嶺田式の甕片が出土している。土坑の形状や遺物の時期から、墓墳である可能性が高い。

SK13 (図16)

長径2.3 m、短径1.0 m、深さ約0.3 mの楕円形の土坑である。出土遺物は弥生土器の破片とともに焼土のブロックが出土している。

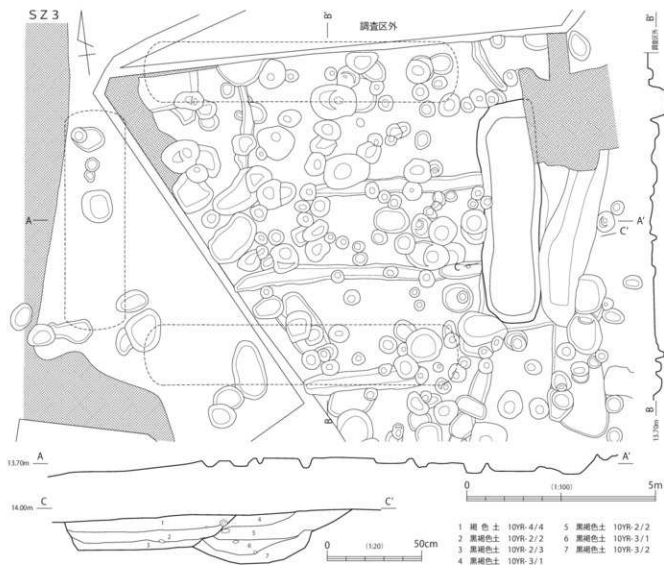


図15. 第17次調査区 SZ3



図 16. 第 17 次調査区 SK 11 ~ 13

SH34 (図 17)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-9°-Wである。遺構規模は梁行3.9m、桁行4.5mを測り、柱間2.4～3.1m、柱穴径0.5～0.75m、深さ0.3～0.55mである。

SH35 (図 18)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-1°-Eである。遺構規模は梁行3.9m、桁行4.5mを測り、柱間2.4～3.5m、柱穴径0.5～0.8m、深さ0.2～0.36mである。遺物も弥生時代後期菊川式と見られる土器片が出土している。

SH36 (図 18)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-5°-Wである。遺構規模は梁行3.7m、桁行3.9mを測り、柱間2.3～2.5m、柱穴径0.65～1.2m、深さ0.2～0.4mである。

SH37 (図 19)

梁間1間、桁行1間の建物で、遺構主軸はN-1°-Eである。遺構規模は梁行4.1m、桁行4.8mを測り、柱間2.9～3.6m、柱穴径0.4～0.85m、深さ0.14～0.24mである。中央に焼土痕があり、この掘立柱建物に伴う炉跡の可能性はある。

SK14 (図 18)

SZ1北溝の覆土を掘りこむ土坑。長径2.0m(残存)、短径1.95m、深さ約0.3mを測る。遺物も弥生時代後期菊川式の特徴を持つことから、SZ1の後に作られたものであることが分かる。

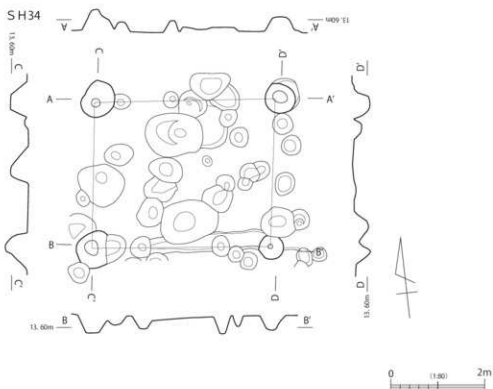
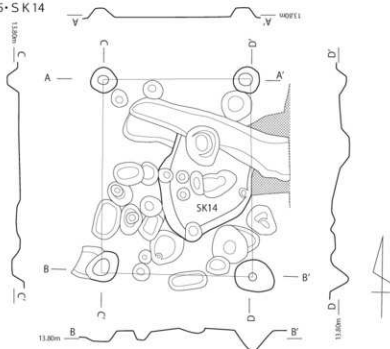


図 17. 第17次調査区 SH34

SH35・SK14



SH36

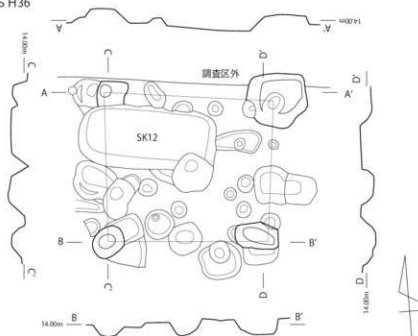


図 18. 第17次調査区 SH35・36 SK14

4-2. 古墳時代の遺構・遺物

SP17-001 (図19)

長径0.8m、短径0.75mの楕円形のビットで、深さは0.38mを測る。南北方向に長軸を持ち隅丸ひし形の平面形を持つ。床面より古墳時代前期の壺がほぼ完形で出土した。

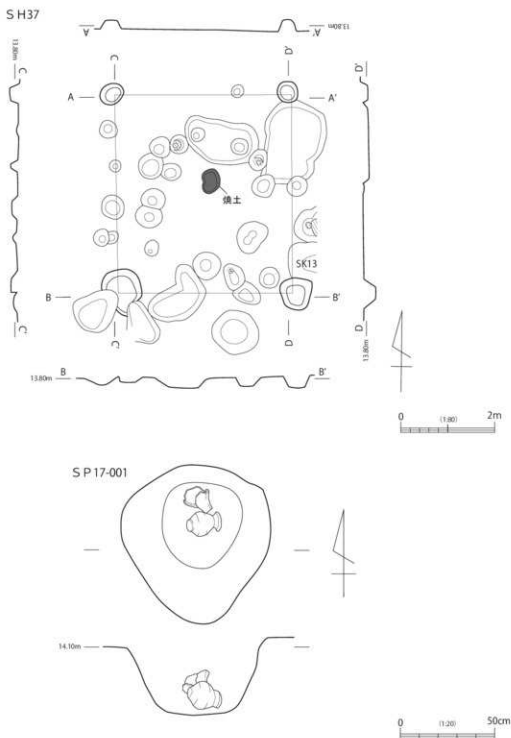


図19. 第17次調査区 SH37 SK13 SP17-001

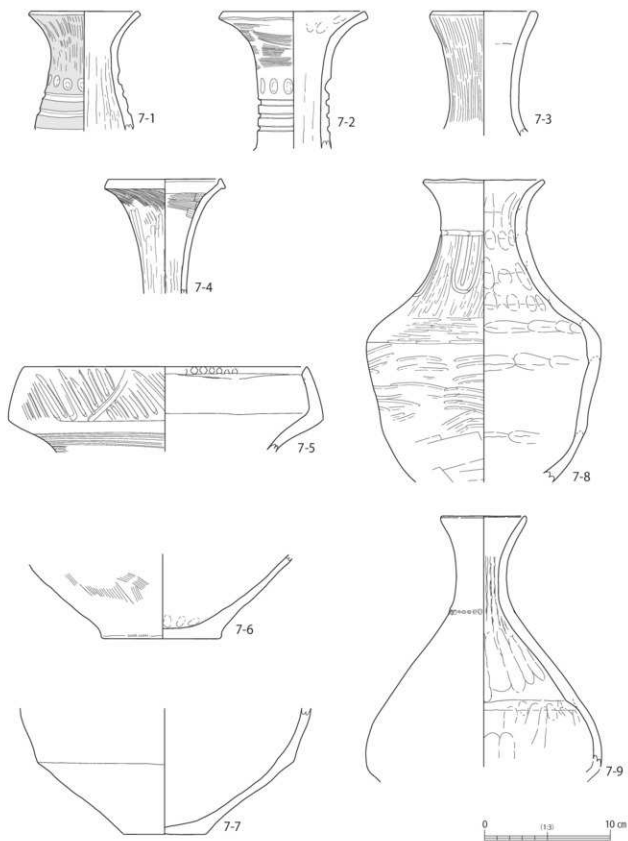


図 20. 第 17 次調査区 遺物実測図 1

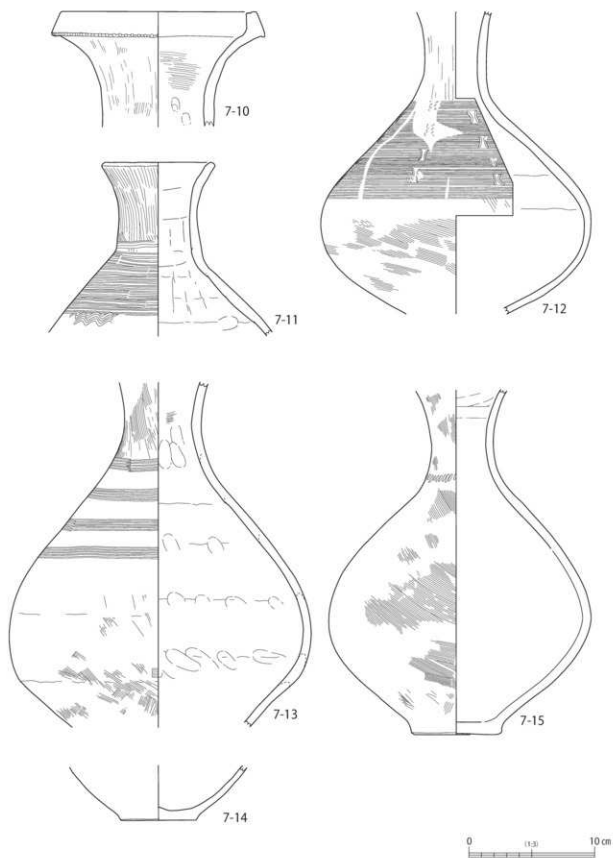


図 21. 第 17 次調査区 遺物実測図 2

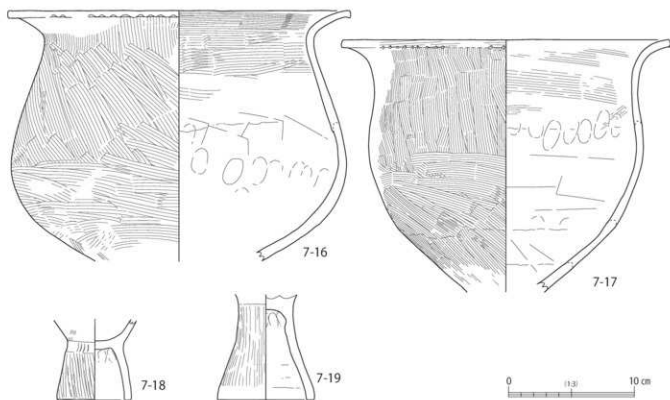


図 22. 第 17 次調査区 遺物実測図 3 SK 11 出土写真

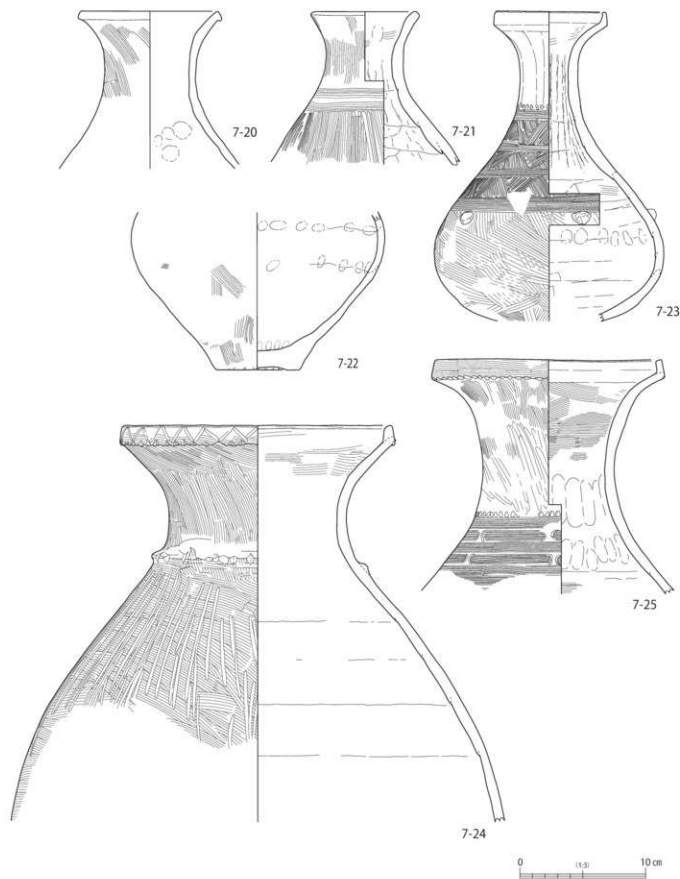


図 23. 第 17 次調査区 遺物実測図 4

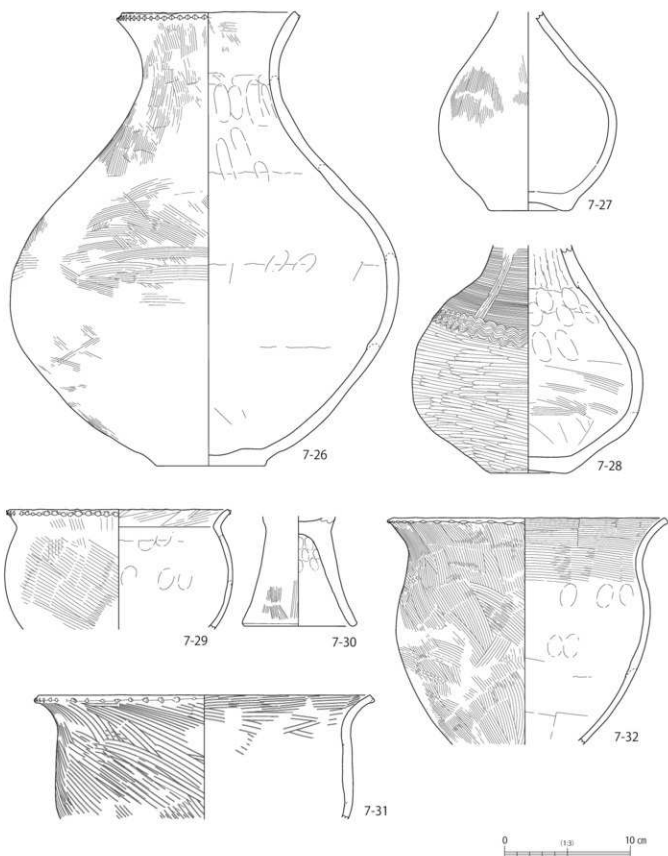


図 24. 第 17 次調査区 遺物実測図 5

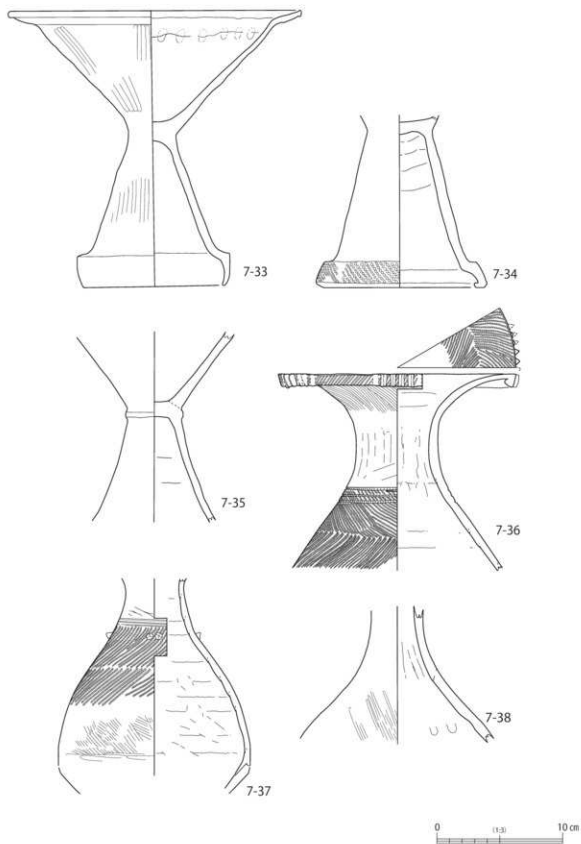


図 25. 第 17 次調査区 遺物実測図 6

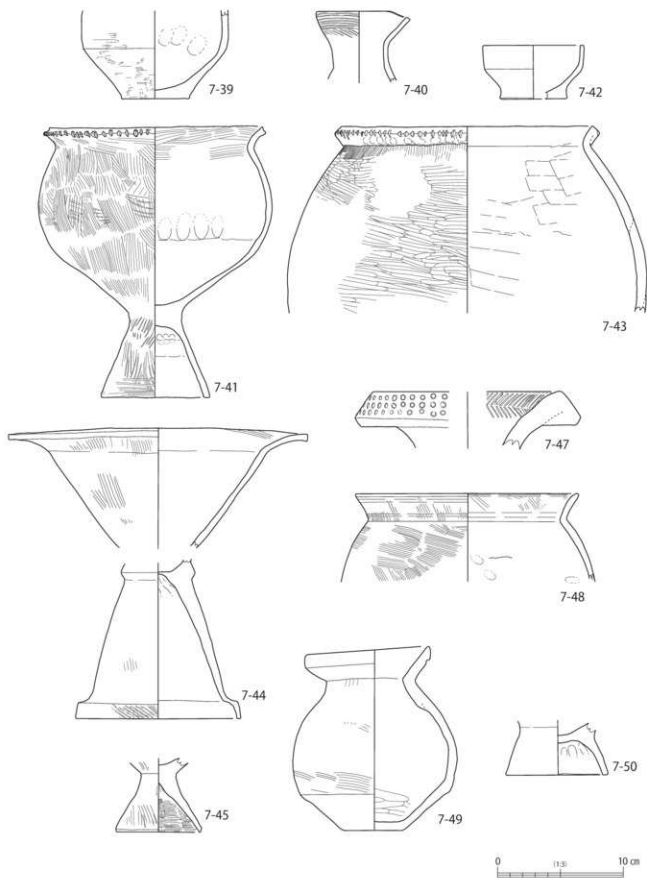


図 26. 第 17 次調査区 遺物実測図 7

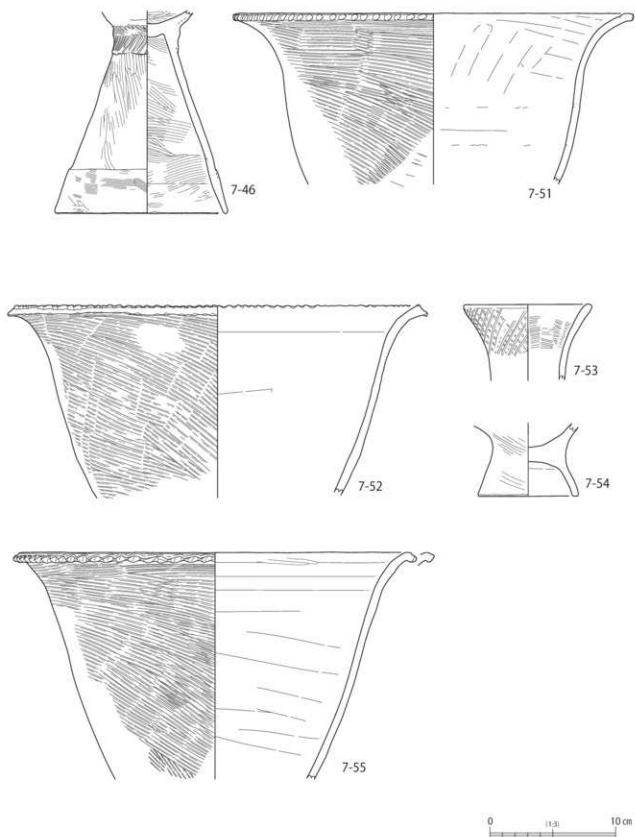


図 27. 第 17 次調査区 遺物実測図 8

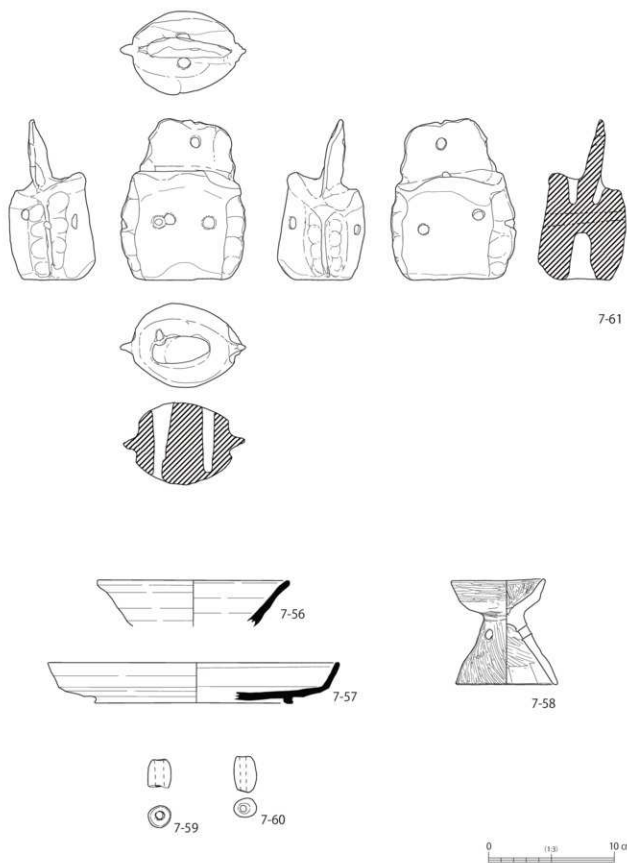


図 28. 第 17 次調査区 遺物実測図 9

5節 第18次調査区

遺跡の南西部に位置する調査区で、調査時期は令和元年8～10月、面積は989 m²である。コの字形の調査区の内側に第16次調査区、東側に第19次調査区、北側に第17次調査区が隣接する。基本層序は概ね以下の通りである。

I層 黄褐色土 表土

II層 黒褐色土 遺物包含層

III層 明黄褐色土 地山 遺構確認面

III層にて遺構を確認するまでに、表土を0.4～0.5 m除去した。遺構確認面の標高は13～13.8 mで、北東から南西方向にかけてゆるやかに傾斜をする。丘陵の南西端にあたることから、他の調査区と比較して傾斜は強い。第18次調査では、竪穴住居1軒、掘立柱建物4棟のほか土坑やピットを検出した。

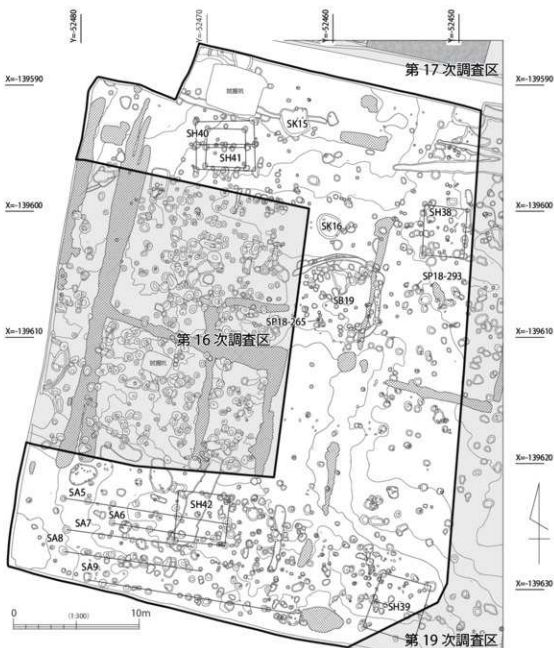


図 29. 第18次調査区全体図 (1:300)